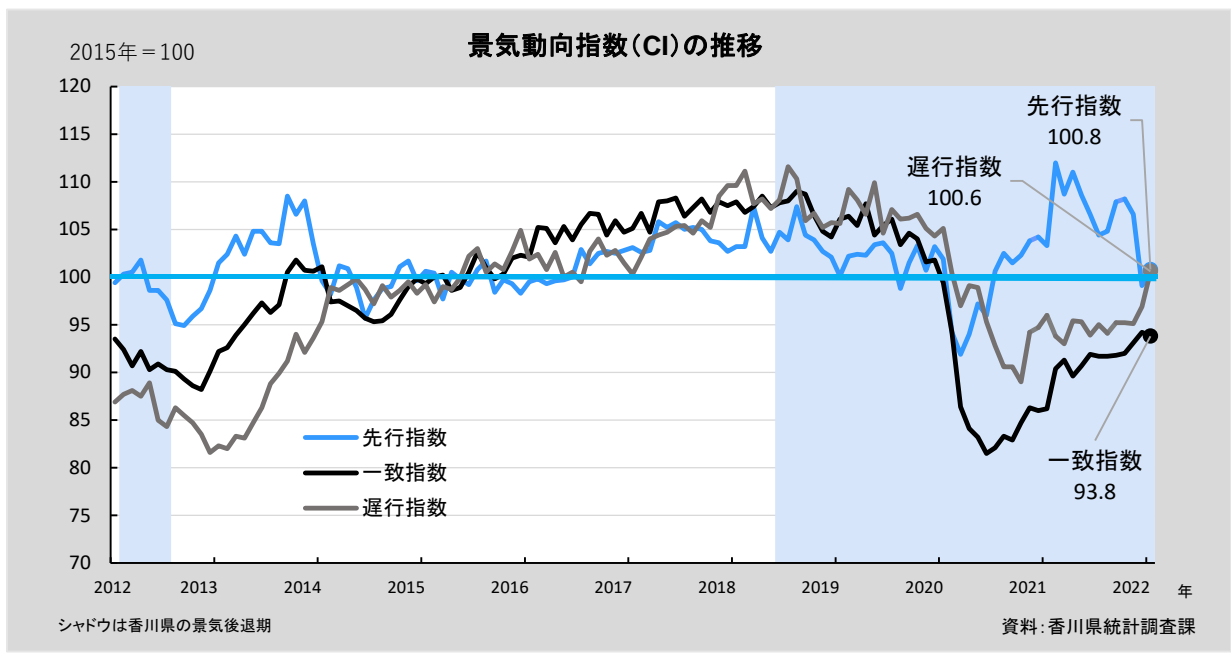


<b>概況</b>	景気は、一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。
<b>個人消費</b>	緩やかに持ち直している。
<b>住宅投資</b>	持ち直しの動きが一服している。
<b>公共投資</b>	減少している。
<b>生産活動</b>	横ばいで推移している。
<b>雇用情勢</b>	緩やかに持ち直している。
<b>貿易</b>	輸出、輸入ともに増加している。
<b>観光</b>	持ち直しつつある。

**景気動向指数(かがわ CI) 一致指数 6カ月ぶり下降**



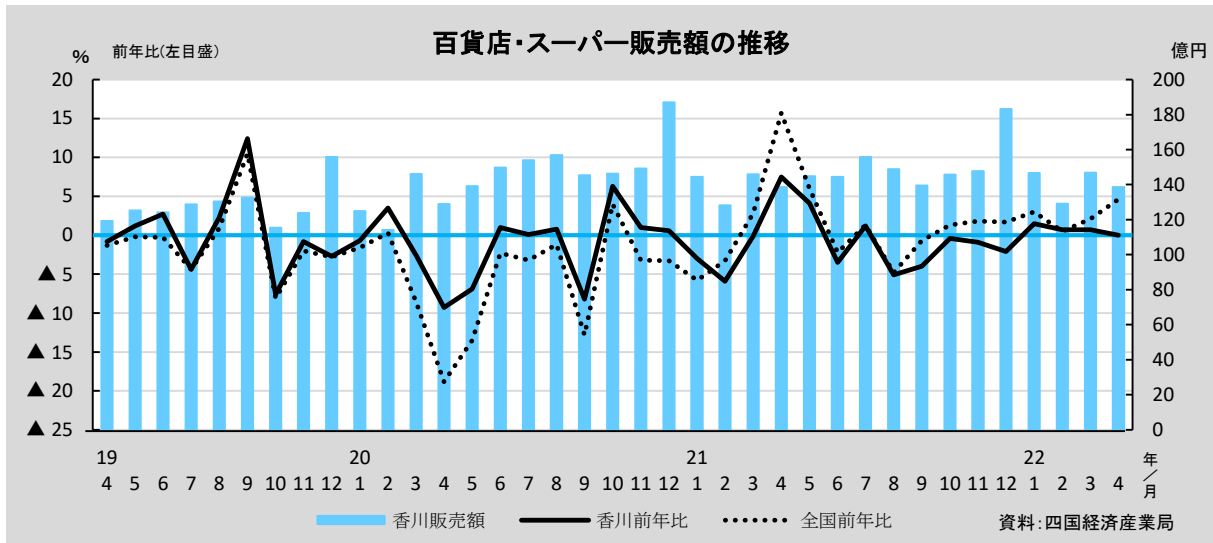
景気の現状をみると、3月のCI一致指数は93.8（前月比▲0.4ポイント）と6カ月ぶりに下降。CI先行指数は100.8（同+1.7ポイント）と3カ月ぶりに上昇。CI遅行指数は100.6（同+3.7ポイント）と2カ月連続で上昇。

景気の現状を示す一致系列の個別指標では、雇用保険受給者実人員、鉱工業生産指数、百貨店・スーパー既存店販売額が下降に寄与したことにより、前月から0.4ポイントの下降となった。

先行系列		寄与度	一致系列		寄与度	遅行系列		寄与度
採用 景気 指標	1 新規求人数	▲ 0.60	1 雇用保険受給者実人員	▲ 0.76	1 常用雇用指数	1.04		
	2 乗用車新車登録台数	0.87	2 有効求人倍率	0.00	2 有効求職者数	0.09		
	3 鉱工業在庫率指数	0.99	3 所定外労働時間指数	0.36	3 消費者物価指数	0.55		
	4 生産財生産指数	0.97	4 鉱工業生産指数	▲ 0.45	4 家計消費支出	▲ 0.87		
	5 新設住宅着工戸数	▲ 0.02	5 鉱工業出荷指数	0.49	5 鉱工業在庫指数	▲ 0.06		
	6 金融機関貸出残高	0.64	6 建築着工床面積	0.10	6 法人事業税調定額	1.56		
	7 消費者態度指数	▲ 1.04	7 百貨店・スーパー既存店販売額	▲ 0.07	7 第3次産業活動指数	1.49		

●百貨店・スーパー販売額

前年と同水準

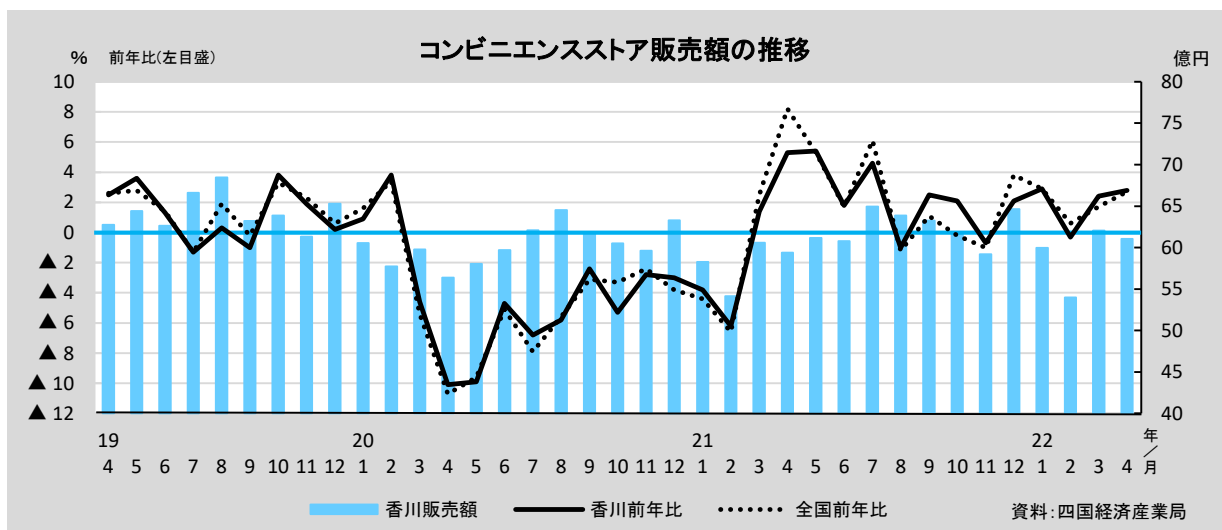


2022/4月	衣料品	身の回り品	飲食料品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(万円)	101,614	55,555	1,025,571	1,343	4,112	25,345	173,127	345	1,387,012
前年同月比(%)	7.9	6.1	▲0.4	▲12.7	▲34.0	2.2	▲2.4	▲3.4	0.0

4月の百貨店・スーパー全店（84店）の販売額は、138.7億円で前年同月と同水準となった。まん延防止等重点措置の解除で外出機会が増加し、「衣料品」は前年同月比+7.9%、「身の回り品」は同+6.1%と好調だった。一方、「飲食料品」は内食需要が落ち着き、同▲0.4%と減少した。

●コンビニエンスストア販売額

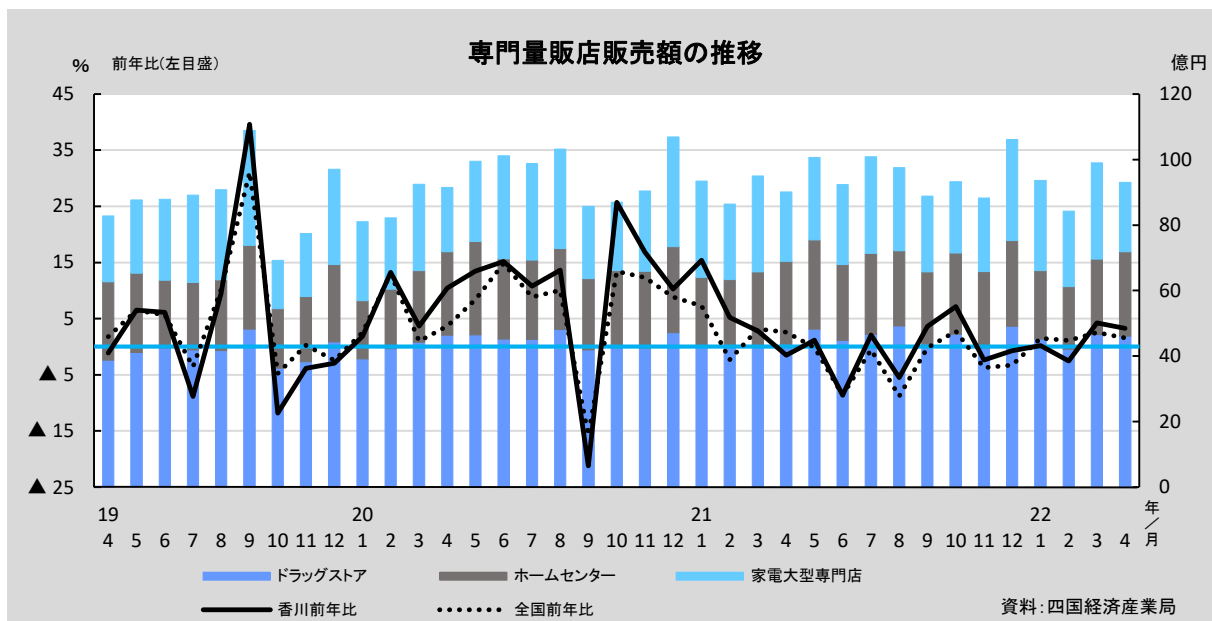
2カ月連続増加



4月のコンビニエンスストア全店（408店）の販売額は61.1億円で、前年同月比+2.8%となった。フライヤー商品、おにぎりなどの動きが良く、2カ月連続の増加となった。

● 専門量販店販売額

2 カ月連続増加 ↑

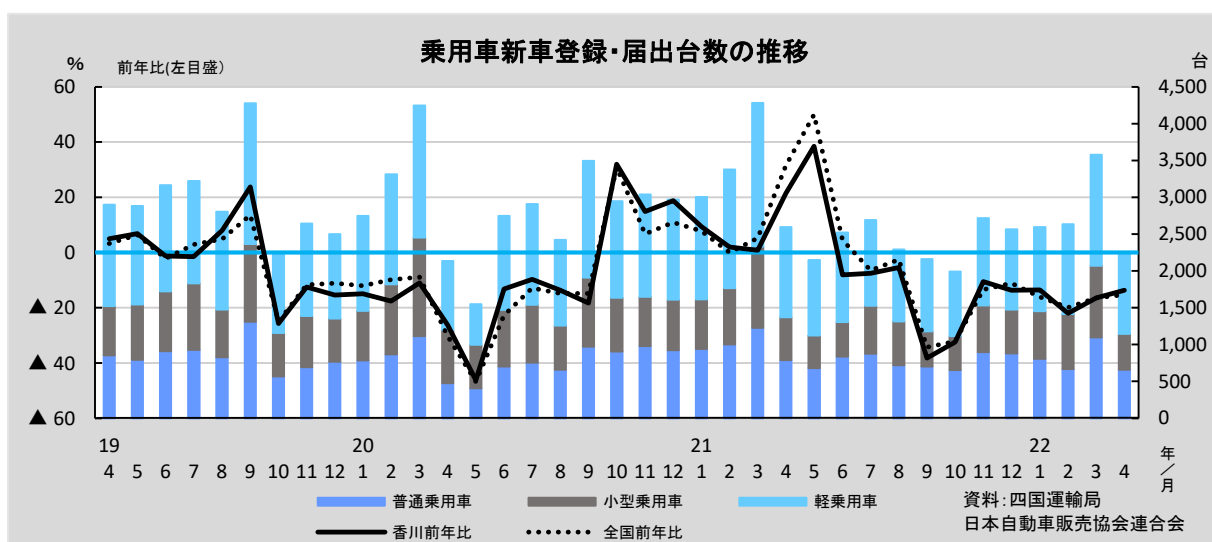


4月の専門量販店全店（209店）の販売額は93.1億円で、前年同月比+3.3%と2カ月連続で増加した。

業態別にみると、**家電大型専門店**（29店）の販売額は21.2億円で前年同月比横ばいとなった。**ドラッグストア**（134店）は、冷凍食品などの飲食料品が堅調に推移し、販売額は46.1億円で同+5.7%となった。**ホームセンター**（46店）は、販売額は25.8億円で同+1.9%となった。

● 乗用車新車販売台数

11 カ月連続減少 ↓



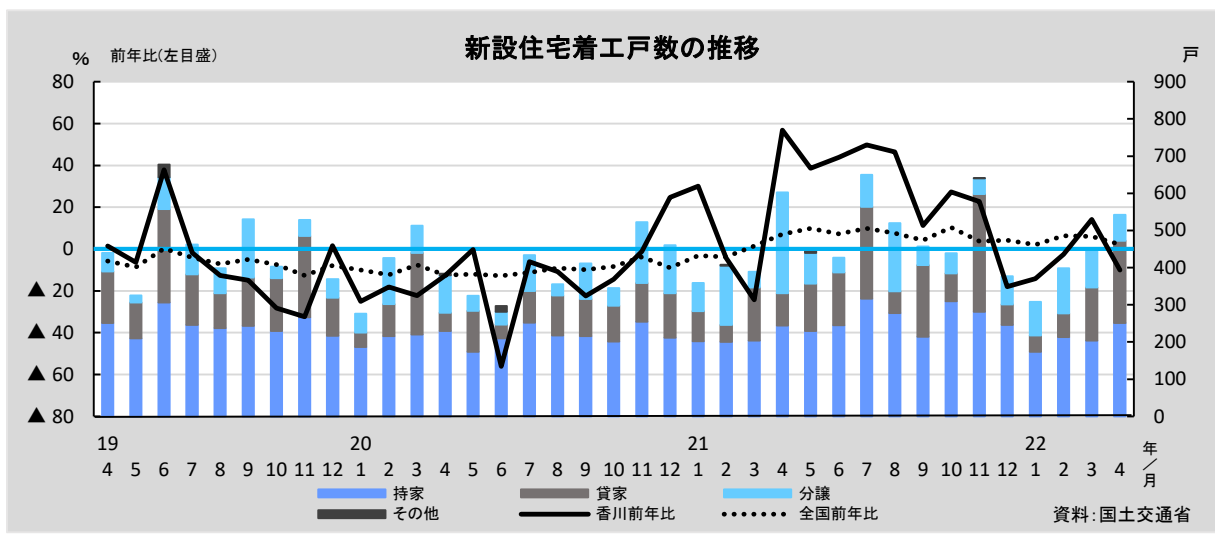
4月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は2,240台で、半導体等の部品不足による生産停滞の影響が続き、前年同月比▲13.7%と11カ月連続で減少した。

車種別にみると、普通乗用車で前年同月比▲16.5%、小型乗用車で同▲16.4%、軽乗用車で同▲10.7%となった。

住宅投資 持ち直しの動きが一服している

●新設住宅着工

2カ月ぶり減少 ↓

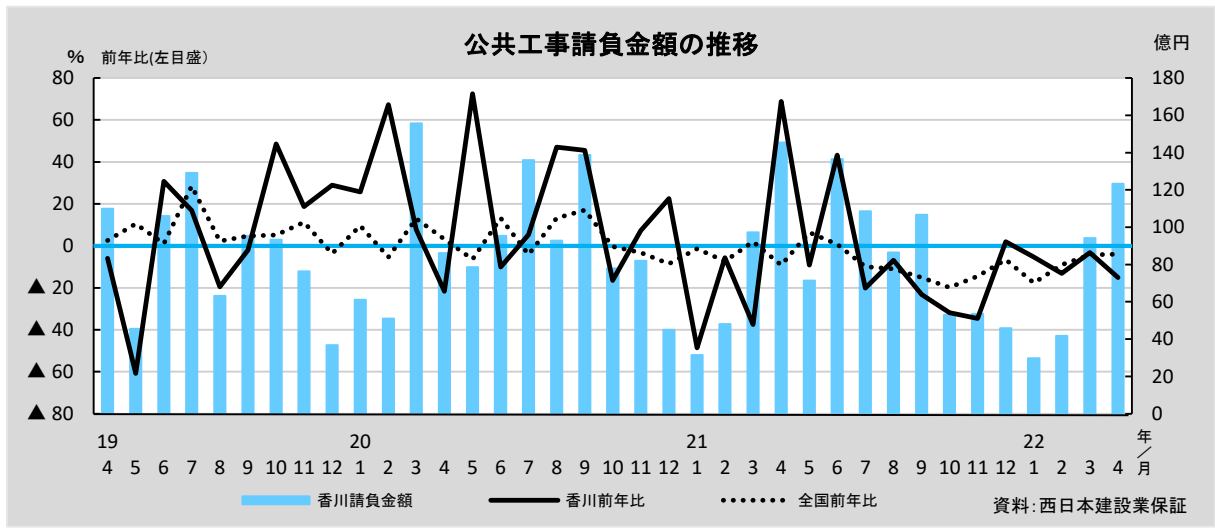


4月の新設住宅着工戸数は542戸で、前年同月比▲10.0%と、2カ月ぶりに減少した。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比+2.9%、**貸家**で同+154.0%、**分譲住宅**で同▲74.2%となった。

公共投資 減少している

●公共工事請負金額

4カ月連続減少 ↓



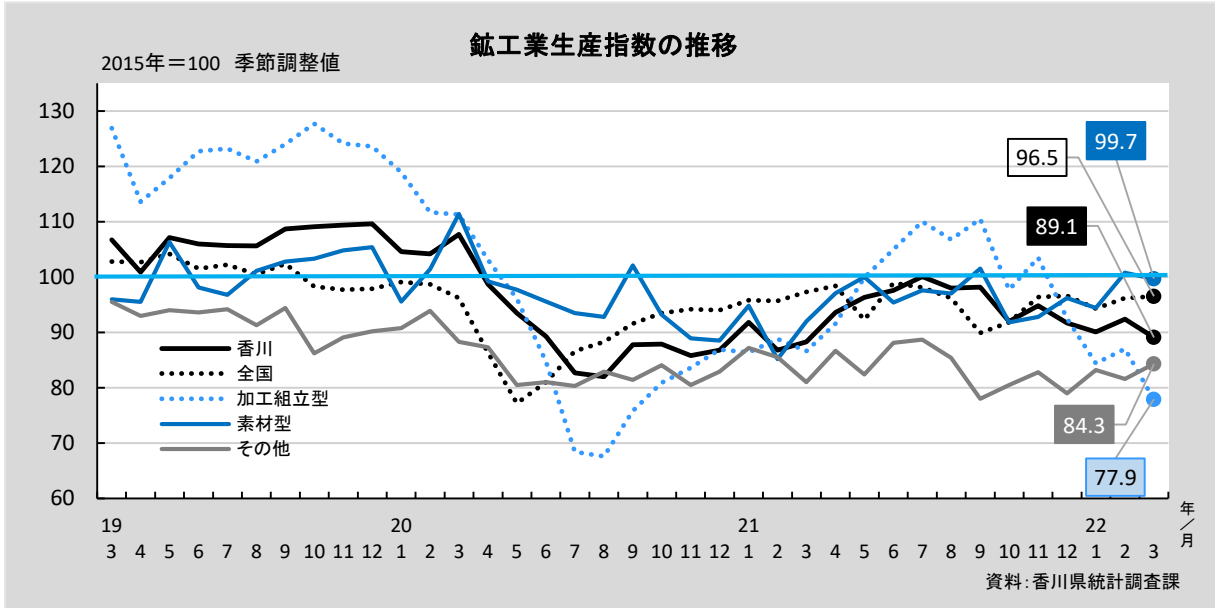
4月の公共工事請負金額123.4億円で、前年同月比▲15.1%と4カ月連続で減少した。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比+76.8%、**県**で同+1.9%、**市町**で同▲52.1%となった。

生産活動

横ばいで推移している

● 鉱工業生産指数

2カ月ぶり低下 ↓



3月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は89.1（前月92.4）となり、2カ月ぶりに低下した。

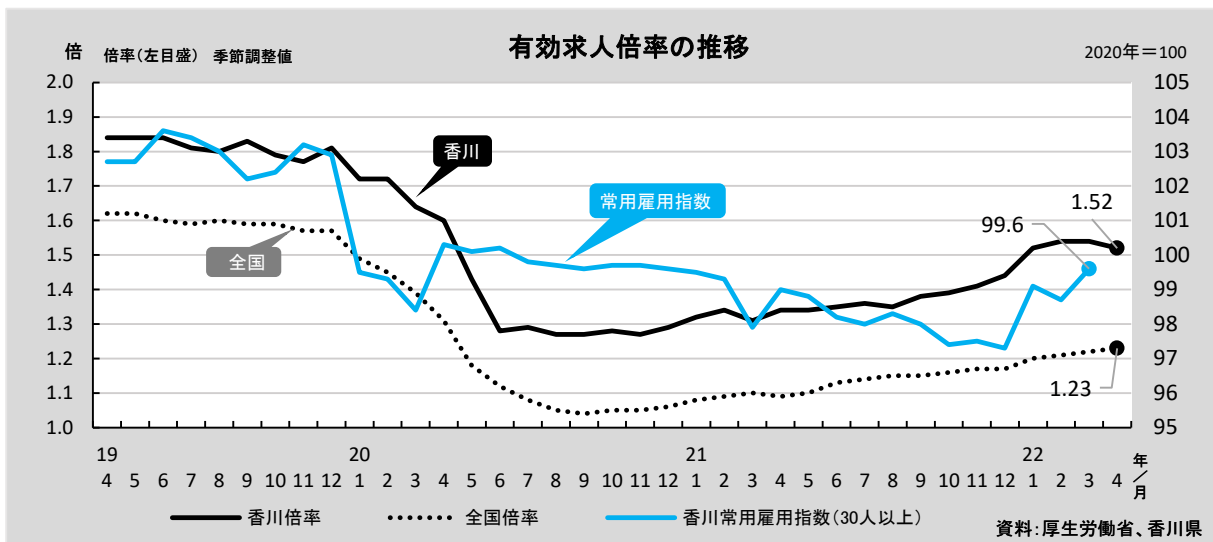
業種別では、素材型の非鉄金属工業（電気金など）は前月比+19.5%、その他業種の繊維工業（炭素繊維など）は同+15.8%と上昇した。一方、素材型の化学・石油石炭製品工業（医薬品など）は同▲21.0%と低下した。

雇用情勢

緩やかに持ち直している

● 有効求人倍率

8カ月ぶり減少 ↓



4月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.52倍（全国8位）と前月より0.02ポイント低下した。

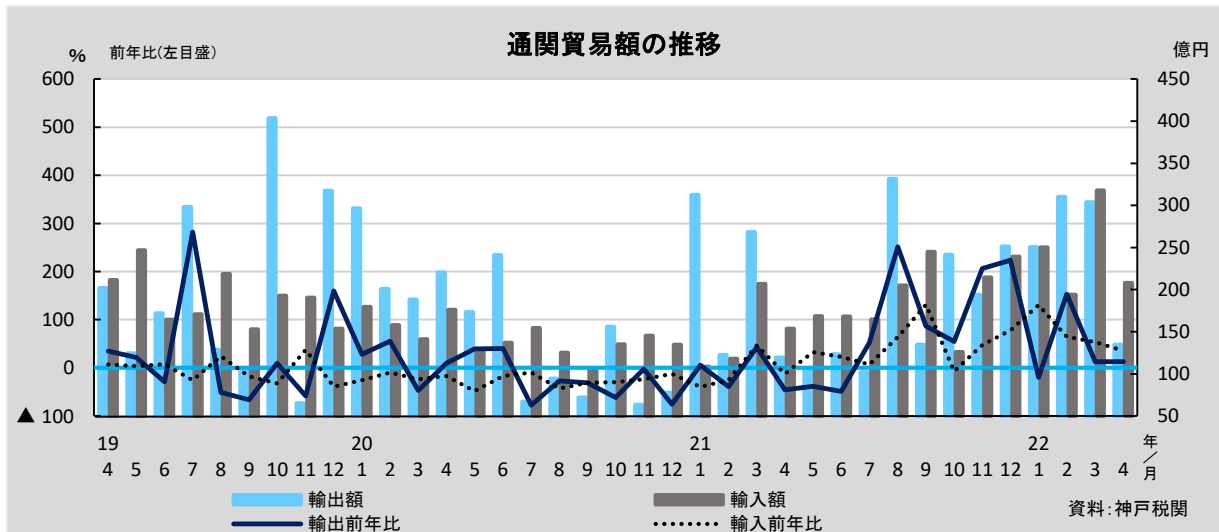
新規求人（原数値：前年同月比）は、農・林・漁業、卸売業・小売業、宿泊業・飲食サービス業、教育・学習支援業等で増加し、全体で+9.2%と13カ月連続で増加した。

3月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、99.6となり、前年同月比は32カ月ぶりに増加した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業	1.81
事務的職業	0.53
販売の職業	2.21
サービスの職業	2.94
生産工程の職業	2.45
輸送・機械運転の職業	2.08
建設・採掘の職業	6.74
運搬・清掃・包装等の職業	1.06

## 貿易

輸出、輸入ともに増加している



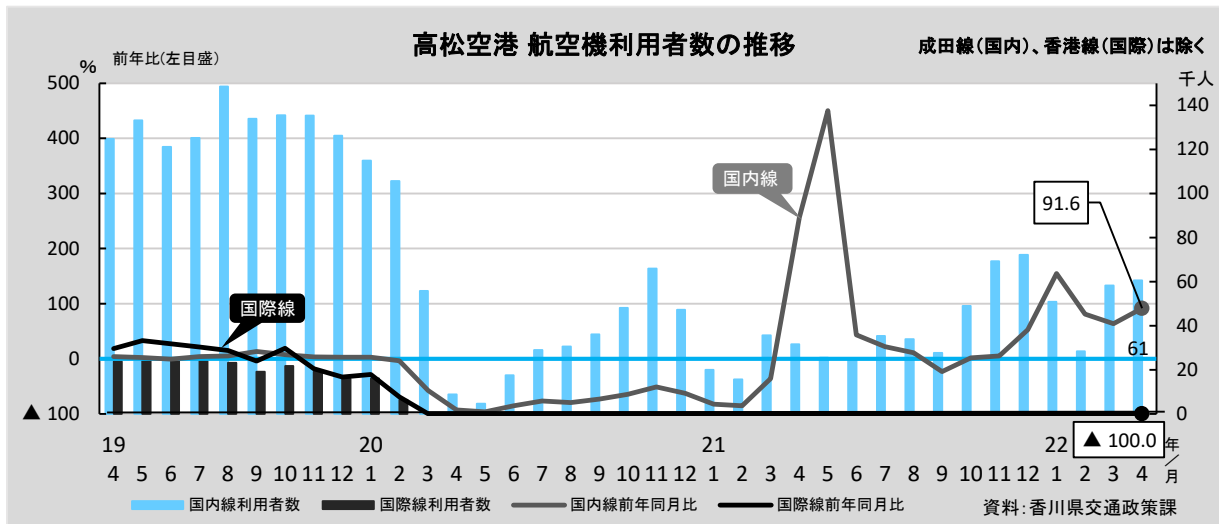
4月の輸出額は前年同月比+12.7%の134.7億円、輸入額は同+35.2%の208.0億円となり、差し引き73.3億円の入超となっている。

輸出は、鉱物性燃料輸出額が前年同月比+27.1%の63億円となった。輸入は、石炭輸入額が同+94.7%の102億円となった。

## 交通

国内線は7カ月連続増加、国際線は26カ月連続全面運休

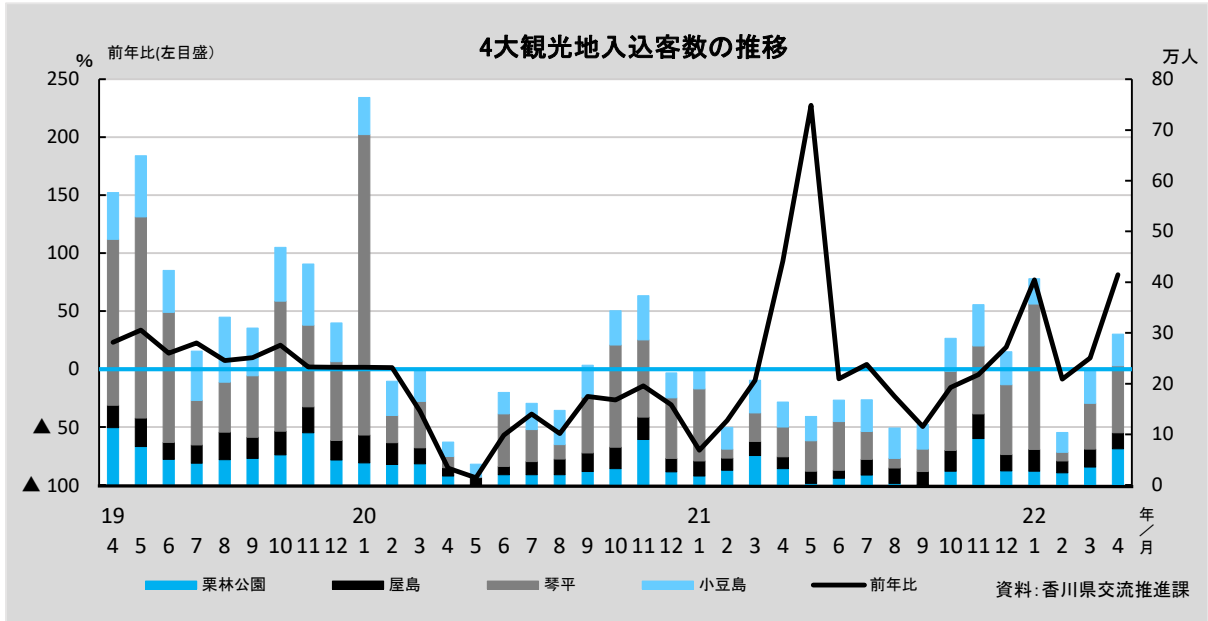
### ● 高松空港旅客輸送実績



4月の航空機利用者数は、国内線(羽田・那覇線)が60,517人(前年同月比+91.6%)となり、7カ月連続で増加した。羽田線は57,195人(同+81.7%)、那覇線は3,322人(同31.9倍)となった。コロナ禍前の2019年同月比では▲51.5%となった。

国際線(ソウル・上海・台北線)は新型コロナウイルスの影響により26カ月連続の全面運休となった。

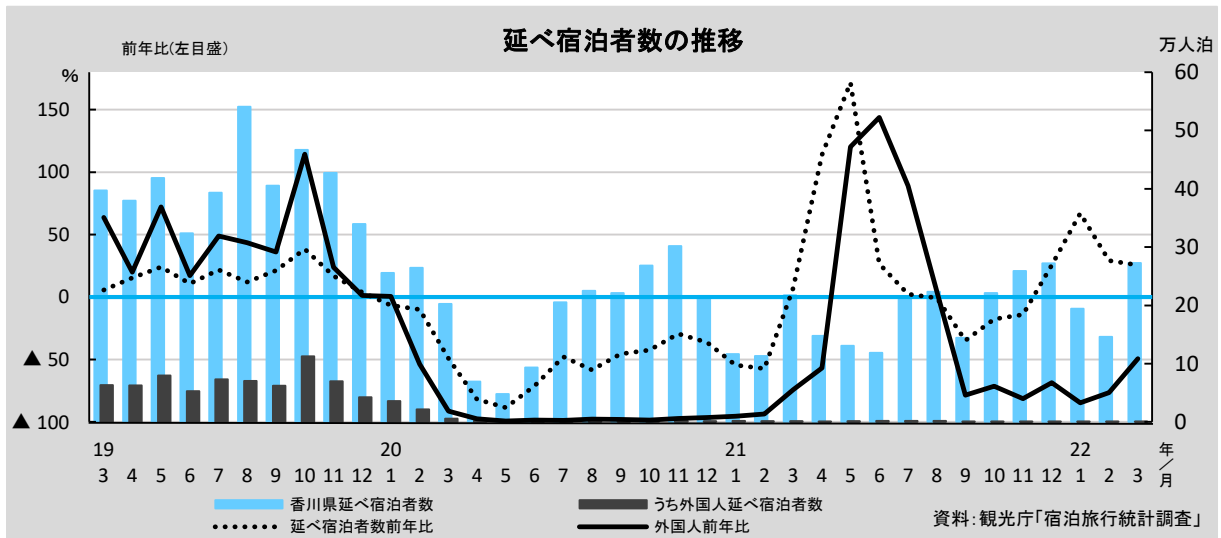
●主要観光地入込客数



観光地入込客数		栗林公園	屋島	琴平	小豆島	合計
4月(人)	前年同月比	71,795	31,028	132,000	62,762	297,585
1~4月累計(人)		158,491	133,011	526,000	217,795	1,035,297
		120.4%	34.1%	123.7%	27.5%	81.5%
		14.8%	27.5%	91.3%	10.5%	44.9%

4月の主要観光地の入込客数は、前年同月比+81.5%と2カ月連続で増加した。琴平は同+123.7%、栗林公園は同+120.4%となり、4カ所全てがプラスとなった。1~4月の累計では前年比+44.9%となった。

●延べ宿泊者数



3月の延べ宿泊者数は272,630人で、前年同月比+25.5%と4カ月連続で増加した。コロナ禍前の2019年同月比では▲31.4%となった。うち、外国人延べ宿泊者数は720人となり、前年同月比▲49.3%と7カ月連続で減少した。2019年同月比では▲98.9%となった。